

第2回水資源政策の政策評価に関する検討委員会議事概要

1. 日時：平成16年8月31日（火） 13:00～15:00
2. 場所：国土交通省（中央合同庁舎3号館）11階特別会議室
3. 出席者
（委員）飯村委員、大久保委員、岡田委員、沖委員、鈴木委員、滝沢委員、月尾委員、
中川委員、長岡委員、真野委員、吉田委員（五十音順）
（事務局）仁井水資源部長、高橋審議官 他

4. 議題

- ・これまでの日本の水資源政策

5. 議事概要

これまでの日本の水資源政策について、各委員から以下のような意見が出された。

- ・河川法が改正されて、地域住民の意見を取り入れる仕組みが出来、流域委員会などでの議論が進んでいる。フルプランでも市町村レベル、ユーザー、住民等の意見を聴取する仕組みが必要ではないか。
- ・意見聴取について、関係者が広域にわたり複雑で調整が難しいというのであれば、パブリックコメントを行えばよい。範囲、性格に応じた参画方法はある。
- ・例えば、水辺の景観の視点も考えれば、水に関する流域住民の関心は高い。
- ・水は住民に近い公共財であり、景観、環境、文化、歴史など様々な視点から考える必要がある。良い統治（Water Governance）を実現するためには、多くの人の参加が必要であり、そのためには行政は説明責任、情報公開を果たす必要がある。
- ・水需要はコストにより全く異なるものであり、水の値段をコントロールすることで需要をコントロールすることは可能である。そういった検討も必要ではないか。
- ・利根川水系では、水源施設、導水施設、利水者が複雑なネットワークを構成しているが、これは需要が膨張する中でこうせざるを得なかったものと考えられる。とすれば、今は需要は増えていないので、単純化することが可能ではないか。
- ・水需要の変化に伴って、フルプランにおいてある用途は減らし、その他の用途は増やすというようなことが可能ではないか。
- ・現在のフルプランには、生活実感というか、五感に訴えるものが何もない。
- ・現在の行政の見方は供給する側の立場に立ちすぎている。水資源政策は大きな曲がり角に来ており、地方分権、市民参加が進んでいる中、国として供給しなければという責務とそれに対する熱意は理解するが、そもそも、水需要の「伸び悩み」という表現について、需要が伸びないことを「悩み」と捉えてしまうことが問題である。減っていることは良いことと捉えてもよい。また、今回の資料では財源、負担の問題に触れられていないが、ファイナンスの視点も入れる必要がある。

- ・「開発水量」の単位として m^3/s を使用しているが、数値だけではイメージがわかりにくい。
- ・フルプランを策定する際に、需要量と供給量の差をどの程度の余裕をもって設定しているのか。
- ・需要の変化によっておよそ10年のスパンで計画変更（下方修正）を行っているが、10年というのは妥当な期間なのか検討が必要。
- ・需要予測ではなく、需要を制御するという発想も必要である。
- ・「健全な水循環系」とは、人間の生活が全くない状態が健全なのか、他の水系からの導水は不健全なのかなど、概念の整理が必要である。
- ・国際業務については、明確に設置法に位置付けられていないと思うが、まず実績を作った上で正式な業務として法的にも位置付けることを目指すべきである。
- ・WTOにおける水道事業のサービス貿易化の議論があるが、国土交通省は国際的な業務の経験が少ないので、今後の対応について、あらかじめ準備をしておく必要がある。
- ・治水と水資源の関係についても改めて整理が必要ではないか。
- ・EU水指令での水管理目標のように、総合的指標を設けて水を管理していくことが必要ではないか。
- ・全体としては長期的に水需要が減少傾向となるが、地域によっては依然供給不足がある場合にどのような調整をするか、用途間転用が互譲の精神に基づいて出来ない部分をどう転用促進を図るか、あるいは異常渇水時に互譲の精神を働かせるためにどういうイニシアチブをとるかが、水資源管理の中身として重要ではないか。
- ・現時点で流域の水に関する計画を作る際に、国が先頭に立って出る必要性について整理が必要である。
- ・本日の議論のポイントとして、
 - ・経済資源だけではなく環境資源としての水資源の位置付け、
 - ・参加型の計画論、
 - ・需要コントロール、
 - ・計画の見直し間隔等（柔軟な計画期間）、
 - ・WTO等への対応、
 - ・財源の手当（国費だけでうまくいくのか）、
 - ・健全な水循環とその目標値、
 - ・国際対応の位置付け、
 - ・アカウンタビリティが挙げられる。
- ・資料については、専門用語ではなく、広く一般の方でもわかりやすい資料を作成すべきである。

第3回は年内に開催する予定。